令和９年度

京都府立医科大学大学院医学研究科

修　士　課　程

学 生 募 集 要 項

京都府立医科大学大学院医学研究科
https://www.kpu-m.ac.jp/
〒６０２－８５６６
京都市上京区河原町通広小路上る梶井町４６５番地
☏０７５－２５１－５２２７（直通）

令和９年度京都府立医科大学大学院医学研究科
【修士課程】入学試験日程

＜前期日程試験＞

〇募 集 人 員：１０名
〇出 願 期 間：令和８年　７月６日（月）から令和８年７月１７日（金）まで
〇入学試験日：令和８年　８月１９日（水）
〇合 格 発 表：令和８年　９月１１日（金）

＜後期日程試験＞

〇募 集 人 員：若干名
〇出 願 期 間：令和８年１１月３０日（月）から令和８年１２月１１日（金）まで
〇入学試験日：令和９年　１月１３日（水）
〇合 格 発 表：令和９年　２月１２日（金）

大学院医学研究科アドミッションポリシー

『求める学生像』

「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念のもと、医学部以外の学部教育を受けた者に医科学分野の基礎知識修得と研究トレーニングの場を提供することによって、他学部で学んだ専門知識や技術を医学に関連する学際的研究分野の開拓に役立てようとする強い意欲と展望を持った人材の育成を目指す。

このため、修士課程には次のような学生を広く求める。

１. 生命の尊厳を守る高い倫理観を持つ人
２. 医学・生命科学の探求を通じて人類の健康維持・増進に貢献しようとする人
３. 広い視点から物事を多面的・多角的にとらえられる人

『入学者選抜の基本方針』

教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するため、高い倫理観とリサーチマインドを持ち、医学と生命科学の進歩と発展に貢献したいとの意欲を有する者を選抜（一般選抜試験及び外国人選抜試験を毎年 2 度（前期、後期））する。選抜試験では、公平性かつ客観性を旨として外国語試験、専門試験及び口頭試験（面接）を行い、すべてが合格点に達したものを合格とする。

令和９年度 京都府立医科大学大学院医学研究科
修士課程 学生募集要項

１　専攻及び募集人員

専攻	募集人員
医科学	１０名 （前期日程試験：１０名、後期日程試験：若干名）

２　出願資格

(1) 大学を卒業した者及び令和９年３月までに卒業見込みの者

(2) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条７項の規定により独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和９年３月までに授与される見込みの者

(3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和９年３月までに修了見込みの者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和９年３月までに修了見込みの者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和９年３月までに修了見込みの者

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和９年３月までに授与される見込みの者

(7) 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和９年３月までに修了見込みの者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年２月７日文部省告示第５号）及び令和９年３月までに該当する見込みの者

(9) 学校教育法第 102 条第２項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

(10) 大学に３年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(11) 本大学医学部医学科に４年以上在籍し、124 単位以上修得した者及び令和９年３月までに該当する見込みの者

(12) その他本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和９年３月 31 日までに 22 歳に達する者

３　出願期間

【 前期日程試験 】　　令和８年７月６日（月）から７月１７日（金）まで
【 後期日程試験 】　　令和８年１１月３０日（月）から１２月１１日（金）まで
ただし、受付時間は、土曜日、日曜日及び祝日を除く、午前９時から午後５時まで。

４　出願書類の提出先

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465番地
京都府立医科大学　教育支援課大学院係　　TEL（075）251-5227（直通）

５　出願手続

出願者は、下記の提出書類を取り揃えて本学教育支援課大学院係に提出すること。
郵送する場合は、本大学院所定の封筒により簡易書留郵便で郵送することとし、**締切日までに必着のこと**。ただし、期限後に到着した場合でも、前期日程試験は令和８年７月１５日（水）以前、後期日程試験は令和８年１２月９日（水）以前の消印のある簡易書留速達郵便に限り受け付ける。

出願にあたっては、予め希望している研究に係る指導教授と必ず面談し、入学後の研究・教育について相談のうえ、下記の書類を提出すること。なお、事前相談は研究内容の確認が目的であり、授業や学生生活等の質問は可能だが、具体的な試験内容等に係る質問には応じかねるため、留意すること。
〔研究内容については、本学ホームページ（https://www.kpu-m.ac.jp/）も参考にして下さい。〕

（※印は本学所定のもの）

1	※	入学願書	必要事項を記入のこと。
2		成績証明書	出身大学長又は学部長が証明したもの【厳封したもの】
3	※	志望理由書	必要事項を記入のこと。
4		卒業証明書又は卒業見込証明書	出身大学長又は学部長が証明したもの
5		学位（学士）取得証明書又は見込証明書	入学志願資格(2)により出願する者
6		写真	出願前３箇月以内に撮影した縦５㎝、横４㎝の脱帽、正面、上半身のもの２葉を裏面に氏名を記入した上、入学願書の所定の欄に貼り付けること。
7	※	入学考査料（振込金領収証明書）	入学考査料 30,000 円 上記金額を本学所定の振込依頼書により納付し、振込金領収証明書（C票）を提出すること。受理後は、理由を問わず返還しない。
8	※	受験票の送付用封筒	所定の封筒に郵便番号、住所及び氏名を記入し、郵便切手（郵便料金に簡易書留料金を加えたもの）を貼ること。
9	※	あて名票シール	（合格通知及び入学手続書類送付用） 必ず合格通知等を受けられる郵便番号、住所及び氏名を記入すること。
10		氏名に関する証明書【該当者のみ】	証明書等に記載された姓名が、出願書類の氏名と異なる場合、変更の事実を示す証明書類（戸籍抄本等）を同封すること。
11		在留カードの写し	外国人留学生のみ。在留カードは表裏両面コピーにて提出すること。ただし、来日前の者はパスポートの写しを提出すること。

（注意事項）
① 出願手続及び出願書類に不備がある場合は受理しない。
② 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがある。
③ 受理した出願書類等は理由の如何を問わず返還しない。
④ 住所変更等により、送付先の変更が必要となった場合は、教育支援課大学院係まで連絡すること。
⑤ 身体に障害のある者で、受験及び修学に際して特別の配慮を希望する者は、出願に先立ち、教育支援課大学院係に申し出ること。

６　資格認定審査

出願資格(9)、(10)、(12)により出願を希望する者は、下記の提出書類を出願書類と同時に提出すること。

(1) 提出書類

①　出願資格(9)及び(10)に該当する者（※印は本学所定のもの）

1	※	出願資格認定申請書	必要事項を記入のこと
2		在学中の学校の在学期間証明書	在学中の者のみ必要【厳封したもの】
3		在学中の学校の成績証明書	在学中の者のみ必要【厳封したもの】
4		履修要覧（学生便覧）等	履修した内容が分かるもの

②　出願資格(12)に該当する者（※本学所定のもの）

1	※	出願資格認定申請書	必要事項を記入のこと
2	※	研究計画書	必要事項を記入のこと
3	※	研究業績調書	必要事項を記入のこと
4		主要な論文、研究発表等の写し	

上記の他、必要により別の証明書等を求めることがあります。
提出書類のうち、外国語で書かれた証明書等には、その日本語訳を添付すること。

(2) 認定方法
提出された書類により出願資格の有無を審査する。

７　入学者選抜方法

学力検査（外国語試験、専門試験及び口頭試験）及び成績証明書の結果を資料とし、総合して判定する。

○ 学力検査の日時

【一般選抜試験】

月　　日	時　　間	学力検査	場　　所
（前期日程試験） **令和８年８月１９日(水)** **（後期日程試験）** **令和９年１月１３日(水)**	９：１５～１１：１５	外国語(英語)試験	大講義室 （看護学学舎１階）
	１２：３０～１４：３０	専門試験	
	１５：００～	口頭試験(面接)	当　日　指　示

※　外国語試験については、英文和訳及び和文英訳とする。和英辞典、英和辞典各１冊の持ち込みを許可するが、電子辞書、医学辞書等の持ち込みは認めない。
※　専門試験については、基礎的な生物学の問題と小論文を日本語で出題し、日本語で解答する。

【外国人選抜試験（１）】

月　　日	時　　間	学力検査	場　　所
（前期日程試験） **令和８年８月１９日(水)** **（後期日程試験）** **令和９年１月１３日(水)**	９：１５～１１：１５	外国語(英文和訳)試験	大講義室 （看護学学舎１階）
	１２：３０～１４：３０	専門試験	
	１５：００～	口頭試験(面接)	当　日　指　示

※　外国語試験については、英文和訳のみとする。英和辞典１冊の持ち込みを許可するが、電子辞書、医学辞書等の持ち込みは認めない。
※　専門試験については、基礎的な生物学の問題と小論文を日本語又は英語で出題し、日本語又は英語で解答する。

【外国人選抜試験（２）】

月　　日	時　　間	学力検査	場　　所
（前期日程試験） **令和８年８月１９日(水)** **（後期日程試験）** **令和９年１月１３日(水)**	１２：３０～１４：３０	専門試験	大講義室 （看護学学舎１階）
	１５：００～	口頭試験(面接)	当　日　指　示

※　外国人選抜試験（２）における専門試験については、英英辞典１冊の持ち込みを許可するが、電子辞書、医学辞書等の持ち込みは認めない。
※　専門試験については、基礎的な生物学の問題と小論文を英語で出題し、英語で解答する。

（注意事項）

※　**外国人留学生は、願書提出時に外国人選抜試験（１）、外国人選抜試験（２）のいずれかを選択すること。願書提出以降に変更することはできない。**
※　外国人留学生であっても、日本の大学を卒業した者及び令和９年３月までに卒業見込の者は、一般選抜試験となる。

８　合 格 発 表

【前期日程試験】　　令和８年９月１１日（金）　午前 10 時

【後期日程試験】　　令和９年２月１２日（金）　午前 10 時

前期、後期日程試験とも本学教育支援課掲示板に掲示するとともに、合格者本人へ通知する。また、本学ホームページにも、上記合格発表日時以降に合格者の受験番号を掲載するが、ホームページでの情報提供は参考情報であるため、合否の確認は、本学教育支援課掲示板又は合格者に送付する合格通知書で正式に確認すること。**なお、電話等による問い合わせには応じない。**

９　入学手続等

(1) 入　学　料　　282,000 円（入学手続き時に納付）
(2) 授　業　料　　535,800 円（入学後別途指示）
(3) 入学手続き日程及び提出書類等については、合格通知書送付の際に指示する。
　※　入学許可を受ける日の前１年以内に罹災する等により、入学料の納付が困難と認められる場合には、入学料が減免又は徴収猶予されることがある。
　※　経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には、授業料を減免されることがある。

（注意事項）
① 入学料及び授業料については変更されることがある。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。
② 納付された入学料及び授業料は返還しない。
③ 授業料は２期（前期・後期）に分けて納付する。
④ 期日までに手続きを行わなかったときは合格を取り消すことがある。

１０　そ の 他

(1) 受験者は、各試験開始１５分前までに試験場に集まること。
(2) 募集要項、願書等を郵送で請求する場合は、郵便番号、住所、氏名を記入し、郵便切手（320 円分を貼った角２サイズの封筒を同封の上、封筒の表に「大学院修士課程入学願書請求」と朱書して下記まで申し込むこと。

〒602-8566　京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 465 番地
京都府立医科大学　教育支援課大学院係　　TEL（075）251-5227（直通）

医学研究科医科学専攻修士課程　遺伝カウンセリングコース

【コースの目的】

本コースでは、がん領域と希少難病領域を含むゲノム医療全般に対応可能な認定遺伝カウンセラー®を養成するための教育プログラムの提供により、京都府におけるゲノム医療の均てん化を推進する遺伝カウンセラーの育成を行う。

【求める学生像】

本コースでは、大学院医学研究科アドミッションポリシーにのっとり、遺伝診療およびゲノム医療の発展に最善を尽くそうとする強い意欲と展望を持った人材の育成を目指す。このため、次のような学生を広く求める。

・ 生命の尊厳を守る高い倫理観を持つ人
・ 広い視点から物事を多面的・多角的にとらえ、問題解決に取り組める人
・ 遺伝医療の実践を通じて人類の健康維持・増進に貢献する意欲を持つ人
・ 国際的視野を持ち、自らの臨床実践および研究成果を国内外に発信できる人

【カリキュラムの特徴】

1　本コースの入学者は、修士課程共通の科目に加えて遺伝カウンセリングコースに独自の科目を履修することにより、幅広いゲノム医科学への理解と遺伝カウンセリングの技能、高い倫理観を涵養し、認定遺伝カウンセラー資格の取得を目指す。
2　本コースでは、遺伝カウンセリングの技能に加え、遺伝子解析の理解と臨床応用に資する能力の獲得に重点を置く。
3　本コースでは、遺伝子診療部ならびに遺伝相談室関連の教員のもとで研究主題を設定、計画立案し、遺伝カウンセリング研究に取り組む。

【修了要件】

８頁の履修方法により 30 単位以上修得することに加え、所定の遺伝カウンセリングコース独自科目を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ修士論文の審査及び最終試験に合格することを、コース修了の要件とする。修了者には修士（医科学）の学位を授与する。

【コース独自科目】

基礎人類遺伝学（講義）、基礎人類遺伝学（演習）、臨床遺伝学（講義）、臨床遺伝学（演習）、遺伝サービス情報学、遺伝医療と社会、遺伝医療と倫理（演習）、遺伝カウンセリング概論、遺伝カウンセリング各論、遺伝カウンセリング演習、遺伝カウンセリング実習、遺伝カウンセリング研究

【募集人員】　２人

前期試験日程で定員に達した場合は後期試験日程において募集しないこととする。

※　本コースへの入学を志願する者は、コースの詳細を理解して出願できるよう、事前に下記連絡先へ連絡するとともに、出願前に希望する指導教授と必ず面談を行うこと。また、出願に当たっては、志望理由書に本コースを志願することを記載すること。

連絡先：京都府立医科大学　教育支援課大学院係　　TEL（075）251-5227（直通）

京都府立医科大学大学院医学研究科修士課程 入学案内

１　修 業 年 限

２年を標準とする。

※　職業を有している等の事情により、標準修業年限（２年）を超えて一定の期間（最長４年まで）にわたり計画的に教育課程を履修することを申請する者については、審査のうえ許可することがある。詳細については、教育支援課大学院係（電話：075-251-5227）まで問い合わせること。

２　授業科目一覧、履修方法及び研究指導の内容等

次ページのとおり

３　学 位 の 授 与

(1)　学位の種類は、修士（医科学）とする。

(2)　修士の学位は、大学院に２年以上（優れた研究業績を上げた者については、１年以上）在学し、所定の履修方法により30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び試験に合格した者に授与する。

４　日本学生支援機構奨学金

大学院生に対する日本学生支援機構の奨学金制度（貸与）があり、学業、人物ともに優秀かつ健康であって、家庭の経済事情により学費支弁困難と認められる者のうち希望者を日本学生支援機構に推薦する。

○　授業科目一覧

（１）　専門教育科目（２６科目）

＜講　義＞（選択必修１０科目、選択８科目）

分子機能形態医科学特論Ａ　（１年次、選択必修、１単位）
（分子細胞機能学）
分子機能形態医科学特論Ｂ　（１年次、選択必修、１単位）
（分子発生遺伝学）
神経機能形態医科学特論Ａ　（１年次、選択必修、１単位）
（形態解析科学）
神経機能形態医科学特論Ｂ　（１年次、選択必修、１単位）
（機能制御解析科学）
神経病態医科学特論Ａ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（神経病理学）
神経病態医科学特論Ｂ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（神経内科病態学）
循環器病態医科学特論Ａ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（循環器調節制御学）
循環器病態医科学特論Ｂ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（循環器病態制御・再生機能医科学）
腫瘍病態医科学特論Ａ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（発がん機構解析学）
腫瘍病態医科学特論Ｂ　（１年次又は２年次、選択必修、１単位）
（腫瘍病理病態治療学）
生体機能センシング特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
認知光学特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
生体材料学・医用工学特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
「食と健康」特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
分子創薬特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
社会環境医科学特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
保健医療行政特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）
医療情報特論　（１年次又は２年次、選択、１単位）

＜専門演習＞（１科目）

医科学演習　（１年次、必修、２単位）

＜セミナー＞（６科目）

発達期医科学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
思春期医科学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
老年期医科学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
女性医科学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
Neuroscience Seminar　（１年次又は２年次、選択、１単位）
Molecular Lifescience Seminar　（１年次又は２年次、選択、１単位）

＜特別セミナー＞（１科目）

特別セミナー　（１～２年次、選択、１単位）

（２）　専門関連科目（４科目）

再生医学特論（Regenerative Medicine）（２年次、選択、１単位）
神経科学特論（Neuroscience）（２年次、選択、１単位）
Medical Oncology（２年次、選択、１単位）
Medical Immunology（２年次、選択、１単位）

（３）　共通教育科目（８科目）

医科学概論　（１年次、必修、１単位）
分子生命科学特論　（１年次、必修、１単位）
医学生命倫理学概論　（１年次、必修、１単位）
医科学研究法概論　（１年次、必修、１単位）
応用言語学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
医科基礎統計学　（１年次又は２年次、選択、１単位）
医療安全管理学概論　（２年次、選択、１単位）
未病システム学概論　（２年次、選択、１単位）

（４）　特別研究科目（１～２年次、必修）

特別研究Ⅰ　（１年次　４単位）
特別研究Ⅱ　（２年次　８単位）

○　履修方法及び修了要件

専門教育科目として、講義、専門演習、セミナー及び特別セミナーを実施し、１１単位以上修得すること。（うち講義科目で選択必修である分子機能形態医科学特論（Ａ、Ｂ）、神経機能形態医科学特論（Ａ、Ｂ）、神経病態医科学特論（Ａ、Ｂ）、循環器病態医科学特論（Ａ、Ｂ）及び腫瘍病態医科学特論（Ａ、Ｂ）から５単位、その他の講義科目から２単位以上の合計７単位以上修得すること。専門演習である医科学演習は必修で２単位修得する。選択科目であるセミナー又は特別セミナーから２単位以上修得すること。）

共通教育科目については、医科学概論、分子生命科学特論、医学生命倫理学概論及び医科学研究法概論の４科目が必修であり、合計４単位以上修得すること。

また、専門関連科目、専門教育科目（講義、セミナー、特別セミナー）又は共通教育科目から３単位以上修得し、学位論文の作成のための特別研究Ⅰ、Ⅱは１２単位修得すること。これにより、合計３０単位以上修得し、学位論文を提出し、審査に合格することが修了要件である。

下記の表は、上記の内容をまとめたものである。

＜修得すべき単位数について＞

区　　分	修得すべき単位数
専門教育科目	１１単位以上
※講義	７単位以上
専門演習	２単位
セミナー、特別セミナー	２単位以上
共通教育科目	４単位以上
※専門関連科目等	３単位以上
特別研究科目	１２単位
合計修得単位数	３０単位以上

※専門教育科目の講義については、選択必修科目から５単位、他の選択科目から２単位以上修得する。

※専門関連科目、専門教育科目、共通教育科目から３単位以上修得する。

○　研究指導の内容（令和８年６月１日現在）

指導教授		特別研究の概要
武藤　倫弘　教授 （分子標的予防医学）	１年次	分子予防医学の現状及び概要をふまえて、分子予防医学の実際を、がんをモデルとして指導する。具体的にはがんの分子標的予防法について研究指導する。
	２年次	１年次での指導をふまえて、今後の分子予防医学の可能性に関して体験する。具体的にはがん体質であると診断された個人に対して、テーラーメイド予防を行えるか否か、それに対して、さらにどのような方法がありうるかについて考察できるように指導する。
高嶋　直敬　教授 （地域保健医療疫学）	１年次	保健医療における健康課題について明らかにするとともに、その背景要因を検討し、予防対策につなげるために必要な疫学的手法について実際のデータを用いた指導を通して修得する。
	２年次	１年次での指導を踏まえて、具体的な健康課題について、疫学的手法を用いて分析を行うとともに、その結果を基に、具体的な予防方法や政策提言につなげる能力を修得できるように指導する。
池谷　　博　教授 （法医学）	１年次	法医学的個人識別法について、従来の方法の有効性とその問題点について法医実務を通して検討し、どのような方法が実務において必要とされているのかを学習する。
	２年次	法医学的個人識別法について、１年次で得られた知見をもとに生化学・分子生物学などの手法を利用し、様々な法医学的資料を用いて、従来の方法とは異なる、専門性の高い新しい方法を実践し、その有効性を検証する。
松山　匡　教授 （救急・ 災害医療システム学）	１年次	救急医療は地域医療としての側面が大きく、システムが重要であるところから社会医学としての視点も不可欠である、講義では、まず、わが国の救急医療システムの歴史を振り返り現状の問題を分析する。そして、諸外国の救急医療システムと比較し、今後の救急医療体制のあり方につき論点を整理する。また、卒前卒後医学教育において救急医療システムの果たすべき役割を検証し、その教育法の変遷、救急医療におけるコミュニケーション技術の重要性につき講義する。
	２年次	阪神大震災、尼崎列車事故、ハイチ地震、東日本大震災など、災害医療の実際を検証し、災害医療システムと救急医療システムの類似点と相違点につき講義を行う。
四方　哲　教授 （総合医療・地域医療学）	１年次	臨床疫学に関する基礎知識を修得することで日常診療から生じた臨床疑問を解決する研究デザインを学修する。そのうえで、教科書や診療ガイドラインの記述を塗り替えるエビデンスを発信する技能を修得する。
	２年次	特定の地域における公衆衛生データ、行政データなどを活用し多変量解析やビッグデータ解析などをおこない政策提案につなげる能力を修得する。患者・医療者の行動変容につながる行動心理学的アプローチ、臨床推論に活用できるデータ統合型研究の手法を修得する。
手良向　聡　教授 （生物統計学）	１年次	統計解析プログラミングを学習するとともに、臨床研究データの統計解析手法、医療技術評価（臨床研究、メタアナリシス）の方法論について、他の専門家とのコミュニケーションスキルを含めて指導する。
	２年次	１年次を踏まえて具体的な課題を定め、研究仮説、臨床研究デザイン、統計解析、結果の解釈・報告について理解したうえで研究成果をまとめられるように指導する。

指導教授		特別研究の概要
瀬戸山　晃一 教授 （医学生命倫理学）	１年次	代理出産や精子・卵子・凍結受精卵売買、出生前診断と選択的中絶や着床前遺伝子診断と胚選別などの生殖補助医療、臓器売買や安楽死・尊厳死などの終末期医療をめぐる倫理的諸問題、遺伝子差別をめぐる諸問題、医学研究をめぐる研究不正と研究公正、倫理審査委員会や委員の役割についてなど、現代医療ならびに医科学研究や臨床試験をめぐる、倫理的社会的法的諸問題（ELSI）について海外の動向を踏まえながら考察し、研究指導する。
	２年次	１年次を基礎として、そこで学修した知的洞察を応用し、現代医療の臨床現場における倫理的ジレンマが生じる事例や医科学研究や臨床試験をめぐる具体的な倫理的社会的法的諸問題（ELSI）について考察する。また、海外の最新動向を踏まえながら、パターナリズムなどの多角的な視点から検討を行い研究指導する。
吉井　健悟　教授 （生命基礎数理学）	１年次	医学研究における数理的方法論を理解するとともに、医学データや生命現象を解析するために必要な種々の統計モデルや数理モデルの導出、構築法を指導する。
	２年次	１年次をふまえ，医学研究における数理的方法論をさらに深く理解するとともに、医学データや生命現象を解析するために必要な種々の統計モデルや数理モデルを用いた研究法を指導する。
家原　知子　教授 （小児科学）	１年次	子どもの体や心のしくみと異常について、子どもを取り巻く環境も含めて全人的、集学的に研究・応用し、社会に働きかけていく学問である小児科学について、各専門領域の研究を通して指導する。
	２年次	１年次での調査・研究成果をもとに、小児科学各専門領域のなかからテーマを絞ってさらに検討を進め、その結論を導き出せるよう指導する。
小野　滋　教授 （小児外科学）	１年次	小児固形悪性腫瘍の集学的治療における外科療法および化学療法について，その役割と考え方，新規治療開発の基礎研究などに関して指導する。また先天奇形の発生と胎児治療について指導する。
	２年次	小児固形悪性腫瘍の各疾患別の生物学的悪性度を決定する因子を解説し、各疾患別に晩期合併症の予防を考慮した外科療法や化学療法の役割と概念に関して指導する。また先天奇形の成因につき検討し、新規治療開発の基礎研究を指導する。
森　泰輔　教授 （女性生涯医科学）	１年次	思春期から老年期までの女性の健康維持・増進、疾病の予防・治療などの諸問題を統合的・全人的に把握し、臨床への還元を志向しうる研究テーマを立案する。加えて研究計画の立て方、調査・解析方法、成果のまとめ方について指導する。
	２年次	１年次での会得した知識をもとに、産婦人科学サブスペシャルティ（周産期学・婦人科腫瘍学・生殖内分泌学・女性ヘルスケア）からテーマを選んで仮説を設定し、調査・解析結果を基づいて、ある結論を導き出せるように指導する。
木塚　雅貴　教授 （医療コミュニケーション学）	１年次	教育学・言語学・医学と密接に関連する下記の領域に関して、受講生の興味・関心に応じて研究の基礎を指導する。 ①専門職（教師・医師）の専門知形成に関する研究。 ②認知発達（言語や学習等）過程に関する教育学・言語学・医学並びに関連諸科学の知見に基づく研究。 ③日本及び海外における教師・医師の養成を中心とする専門職養成教育の方法理論と実践に関する研究。 ④日本及び海外における学校・医療機関で働く専門職の力量維持・形成・向上に関する研究。

指導教授		特別研究の概要
	２年次	教育学・言語学・医学と密接に関連する下記の領域に関して、受講生の興味・関心に応じてより発展した研究内容の指導を行う。 ①専門職（医師・教師）の専門知形成に関する研究。 ②認知発達（言語や学習等）過程に関する教育学・言語学・医学並びに関連諸科学の知見に基づく研究。 ③日本及び海外における教師・医師の養成を中心とする専門職養成教育の方法理論と実践に関する研究。 ④日本及び海外における学校・医療機関で働く専門職の力量維持・形成・向上に関する研究。
（ゲノム医科学）	１年次	
	２年次	
中田　慎一郎　教授 （分子生化学）	１年次	DNA 損傷応答・修復機構の解明、および DNA 二本鎖切断に伴う細胞毒性を回避するゲノム編集技術に関する研究に従事する。細胞を用いた分子・細胞生物学的実験を通じて、実験計画の立案から取得データの解析・考察に至るまで、教員や研究員と議論を深める。これにより、基礎的な生命現象の理解から将来的な医療応用へと繋がる、確固たる研究遂行の基盤を確立する。
	２年次	DNA 損傷応答・修復機構の解明や、ゲノム編集技術の高度化・応用に関する研究を自らの考えを取り入れながら実践する。１年次で修得した実験手技や論理的思考力を基盤に、より発展的な実験計画を自ら立案する。取得したデータの多角的な解析・解釈を含め、研究の全プロセスを主体的に遂行し、教員の指導を受けながら一連の研究プロジェクトを完遂させる。
貫井　陽子　教授 （分子病態感染制御・検査医学）	１年次	感染症・感染制御・臨床検査医学に関わる臨床・基礎データの収集を行う。また最新の知見をふまえ、新規性なども吟味し各自の興味に沿った研究テーマを設定し、指導教官とともに調査・研究を行う。
	２年次	１年次での調査結果などをもとに、薬剤耐性菌の病原性解析や臨床感染症学、フローサイトメトリーを用いた細胞解析などの中からテーマを設定し、指導教官と共に臨床的に意味のある研究を遂行する。
（内分泌・代謝内科学）	１年次	
	２年次	
的場　聖明　教授 （循環器内科学）	１年次	さまざまな循環器疾患患者に関する臨床データを集めて概観しデータを整理して、病院での臨床疫学や病態生理を解明する研究をどのようにすすめればよいのかを、会得できるように指導する。疫学や分子生物学、遺伝子編集により循環器疾患、生活習慣病、老化関連疾患の病態解明や治療方法を学びその実験や社会実装を行えるよう指導する。
	２年次	１年次で会得した手法・知識を発展させ、臨床データを実際に集計・解析し、臨床的に意義のある結論が導けるように指導する。
（呼吸器内科学）	１年次	
	２年次	

指導教授		特別研究の概要
髙木　智久　教授 （消化器内科学）	１年次	消化器および消化管臓器の生理機能に関する理解を基盤として、炎症性腸疾患、慢性肝疾患、消化器がんなど多岐にわたる消化器疾患の病態について体系的な基礎知識を習得する。これにより、消化器疾患の病態理解を深化させ、臨床疫学研究および病態生理基礎研究に取り組むための学術的基盤を養う。
	２年次	１年次に培った学術的基盤を踏まえ、基礎研究または臨床疫学研究を実施する。研究過程で得られたデータを適切に解析・考察し、研究成果を学術論文として体系的にまとめる能力を養うとともに、学会発表や論文作成を通じて研究成果を発信できるよう指導する。
黒田　純也　教授 （血液内科学）	１年次	造血器悪性腫瘍の治療方針は、病理診断と予後因子の評価に基づいて決定される。各疾患の病態形成を司る分子病態、臨床的予後規定因子と治療戦略に関する基礎的理解を深められるように指導する。
	２年次	1年次での到達度を踏まえ、造血器悪性腫瘍に対する化学療法の薬剤選択、造血幹細胞移植、放射線照射などの至適な組み合わせについて、疾患の分子病態解析と臨床病態、エビデンスから総合的に最適な治療方針の決定を検討できるように指導する。
尾原　知行　教授 （脳神経内科学）	１年次	認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患、遺伝性神経疾患、神経免疫疾患、脳血管障害等などからテーマを選び、臨床データベースの構築、データ解析を指導する。
	２年次	１年次での成果をもとに、神経疾患の分子病態メカニズム、先進的な神経機能画像解析の基礎に関する理解を深めてもらい、新たな治療法、診断法を目指した研究を行えるように指導を行う。
福本　毅　教授 （皮膚科学）	１年次	皮膚の構造および生理機能に関する基礎的知識を体系的に修得し、アトピー性皮膚炎などの炎症性皮膚疾患ならびに悪性黒色腫を含む皮膚腫瘍の病態に対する理解を深める。特に、皮膚バリア機能障害、免疫応答、老化や慢性炎症といった視点から、疾患の成因に関わる分子・細胞レベルの病態要素を多角的に整理・分析する。これらの知見を踏まえ、皮膚科学の臨床的課題との関連性を意識しつつ、自らの関心領域に即した研究テーマを自律的に構築できるように指導する。
	２年次	１年目に立案した研究課題に基づき、炎症性皮膚疾患および皮膚腫瘍に関する病態解析を目的とした実験研究を展開する。具体的には、培養細胞や iPS 細胞、皮膚オルガノイドといった in vitro モデルに加え、マウスなどの in vivo モデルを適宜活用し、疾患関連因子の機能的評価および病態の解明を試みる。得られた研究成果に基づいて、病態理解ならびに新規治療戦略の構築に資する知見の養成を図る。
（生体構造科学）	１年次	
	２年次	
八代　健太　教授 （生体機能形態科学）	１年次	脊椎動物の発生の分子機構を理解するために、特に心臓・循環器系の発生過程に焦点を当て、発生生物学・幹細胞生物学的な研究を推進するために必要な基礎的技能を指導する。特に、基本的な発生生物学的な概念を理解し、技術的には分子生物学的実験手技、胚の操作手技、および組織学的な解析方法を学習する。
	２年次	第１学年で身につけた技能に基づき、実験を行い、得られた結果を解析・解釈し、まとめた上で学会発表や論文の形で公表するための一連の基本的な研究の作業を指導する。これによって、科学者としての基本的姿勢を身につけさせ、かつ発生生物学的・幹細胞生物学的な生命現象についての理解を深める。

指導教授		特別研究の概要
樽野　陽幸　教授 （細胞生理学）	１年次	イオンチャネルは感覚をはじめとする多様な生命機能を司り、その機能破綻は様々な疾患を引き起こす。生命の理を追求する生理学研究について、感覚系やイオンチャネルに着目して指導する。
	２年次	1年次での達成度をふまえて、一つの分子の機能が臓器機能や個体の行動に与える影響を解析・操作する手法を習得し、分子から個体を見据えた統合的な研究を指導する。
八木田 和弘　教授 （統合生理学）	１年次	普遍的な生命機能のひとつである生体リズムに着目して、生理機能を分子から個体レベルまで様々な階層で、「生きたまま、あるがまま」の状態で観察する方法を習得する。
	２年次	１年次で得られたデータに対し、分子レベルの動作原理から細胞・臓器・個体レベルの機能へと統合する貫階層的機構について理解を深める。
高西　陽一　教授 （物質生命基礎科学）	１年次	生体の運動・機能やその測定機器および医療機器について、物理学的原理からその根本を理解するとともに、モデル化された試料を用いての基礎的な実験を行い、その技術を習得するとともに結果を考察する能力を身につける。
	２年次	１年次で学んだ知識・技術・考察力などを基に、生体機能をモデル化した試料を用いた実験、ないし数理モデル的シミュレーションを行い、将来の医療に繋がる物理学的基礎研究を行う。
吉澤　達也　教授 （細胞生物学）	１年次	細胞・臓器間の情報伝達は、変動する環境に対応した個体の恒常性維持機構の要です。分子の機能を個体レベルで理解するために、分子生物学・細胞生物学・内分泌代謝学などの幅広い知識の習得、および分子・細胞・マウスを用いた各種実験技術を獲得できるように指導する。
	２年次	１年次で習得した知識と技術を基に、細胞・臓器間シグナル伝達を介した個体の恒常性維持機構とその破綻による疾患の分子機構に関した研究を指導する。テーマは、運動器（骨と筋肉）の恒常性維持機構、骨による他臓器機能の制御機構など。
小嶋　基寛 教授 （臨床病理学）	１年次	病理観察から、病理形態的像を説明できるようにする。ヒト試料を用いた病理学的解析を理解すると同時に、研究に必要な知識と手続きを理解する。
	２年次	病理観察から浮かび上がる疑問点を抽出し、それを解決するために必要なモデルや実験手法を検討・実践する。
原田　義規　教授 （細胞分子機能病理学）	１年次	細胞・分子レベルで病気の成り立ちを解明することを目指し、指導教員と相談の上で研究テーマを設定する。生体組織イメージングやラマン分光法などの先端技術を活用した実験を通じて、基礎的な実験技術と科学的思考力の修得を図る。
	２年次	１年次に実施した研究をさらに発展させ、その成果を学会発表や修士論文としてまとめる。分子病理学・細胞生物学の知識と実験技術を統合し、病態解明に向けた研究の進め方を主体的に会得できるよう指導する。
宮川　文　教授 （分子病態病理学）	１年次	遺伝要因と環境要因に基づく脳形成・発達異常の病態・発生メカニズムを解明するために、遺伝子改変モデル動物、マウス胎仔由来神経幹細胞や神経細胞等を用いて、組織学的、分子生物学的、生化学的解析方法を駆使した解析を指導する。
	２年次	１年次で得られた知見・技術を基盤に、遺伝子改変モデル動物等を用いて、脳形成異常のメカニズム解明と分子標的治療の探索的研究を指導する。

指導教授		特別研究の概要
中屋　隆明　教授 （感染病態学）	１年次	ウイルス、細菌および寄生虫感染症に対する病原性の機構解明および診断、治療、予防法の開発を目的とした研究を指導する。
	２年次	１年次で得られた知見・技術を基に、感染試験等を通して特定のウイルス、細菌あるいは原虫の病原性の分子メカニズムについて考察し、結論を導くことができるように指導する。
（免疫学）	１年次	
	２年次	
楳村　敦詩　教授 （病態分子薬理学）	１年次	疾患を標的とする創薬には、発症機構に関わる標的分子の探索および理解が重要である。癌、生活習慣病をはじめ高齢化社会で増加する種々の疾患について、その分子基盤に焦点を当て、制御機構を含めた知見を視野に指導する。
	２年次	１年次で得られた知見や習得した技術を応用することで、疾患の新規治療法確立につながる創薬を目指した開発過程を理解できるよう指導する。
成本　　迅　教授 （精神機能病態学）	１年次	精神医学領域における代表的な疾患である、統合失調症、気分障害、不安症、認知症などから一つの疾患を選んで、その症状、経過、治療方法について理解を深め、新しい検査方法や治療法の開発研究の基礎を身につけられるよう指導する。
	２年次	１年次での学習を踏まえて、文献検索を行ってこれまでの研究結果を解析し、新しい研究計画を立てることができるように指導する。
山田　　惠　教授 （放射線診断治療学）	１年次	ＣＴ／ＭＲ／ＳＰＥＣＴ／ＰＥＴ等、診断に用いられる医用画像の基礎およびその読影の実際に関して指導する。これらの画像から得られる体内の形態・機能情報の有効性を知る。
	２年次	ＣＴ／ＭＲ／ＳＰＥＣＴ／ＰＥＴ等、診断に用いられる医用画像の読影の実際や画像処理方法等に関して体験した上でその改善点を研究する。
大庭　　誠　教授 （医系化学）	１年次	医薬品開発のために必要な、有機合成化学、有機反応化学、構造化学、生物科学、計算化学などの幅広い知識、技術を創薬研究を通して獲得できるように指導する。
	２年次	１年次で習得した知識・技術を基に、医薬品候補化合物の分子設計・合成・生物活性評価を自らの手で行えるように指導する。
塩﨑　敦　教授 （消化器外科学）	１年次	消化器癌に対する手術や化学療法について、これまでの臨床データを解析し術後の生存率向上に寄与する臨床因子を同定する。これにより新たな治療方針や診断・予後マーカーを導き出せるように指導する。
	２年次	消化器癌の診断・治療に関する研究指導を行う。血中バイオマーカーの解析による癌のテーラーメイド治療、再発癌の早期診断、放射線および化学療法の効果予測などに関する研究を指導する。
直居　靖人　教授 （内分泌・乳腺外科学）	１年次	乳癌手術症例の予後因子と治療効果予測因子を検討するために複数の臨床病理学的因子について、主として症例別の予後とそれらに関連する因子を後方視的に解析し、最新の治療選択法の意義を理解できるように指導する。
	２年次	乳癌の薬物療法について学習し、その上で主に薬物療法の感受性や副作用発現に関連する因子の研究を指導する。

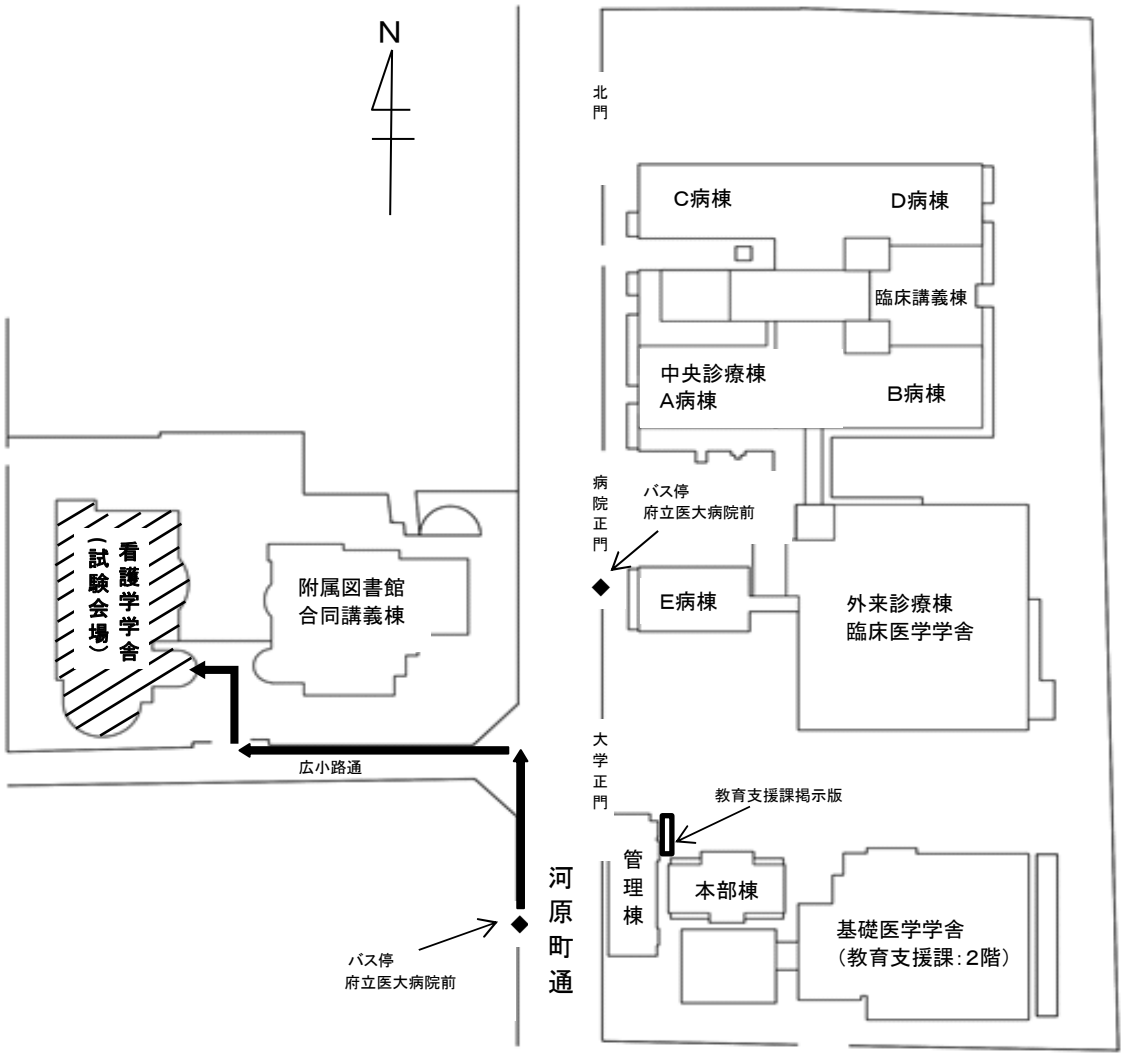
指導教授		特別研究の概要
小田　晋一郎　教授 （心臓血管外科学）	１年次	心臓血管外科術後遠隔期の問題点を明らかにし、その改善点を探求すべく、臨床データの集積、解析法を指導する。
	２年次	特別研究Ｉの成果を踏まえ、最終結論や発展的課題に結びつくよう指導する。
井上　匡美　教授 （呼吸器外科学）	１年次	原発性肺癌や転移性肺腫瘍などの肺悪性腫瘍の疫学、病態、診断方法、治療手段、予後などを理解し、これらの疾患に対する外科治療の意義を考案する。また、肺機能生理学に基づいた手術適応や術式の決定プロセスを理解する。
	２年次	肺悪性腫瘍に対する治療方法に関する理解を深め，臨床データの解析に基づいて現在の問題点と今後の課題を導き出せるように指導する。癌薬物療法や放射線治療と組み合わせた集学的治療の有効性や、低侵襲手術のメリットを理解し、呼吸器外科治療の統合的な理解に結びつける。
橋本　直哉　教授 （脳神経機能再生外科学）	１年次	脳神経外科疾患は、患者さんが新生児から高齢者まで全年齢層にわたり、ＡＤＬおよびＱＯＬに密接に関連することから、病巣周囲で非可逆的な神経損傷が生じる前に速やかに正確な診断を下し、迅速に治療を遂行することが重要であることを習得する。
	２年次	脳神経外科が中枢神経および末梢神経系疾患を専門に治療する外科であり、とりわけ、人格や感情などの高次脳機能から生命維持機能までを制御する脳実質を、直視下に操作して病巣を治療する分野であることを習得する。
髙橋　謙治　教授 （運動器機能再生外科学）	１年次	老年期の運動器疾患における、症候、診断、治療に関する最近の研究動向について、文献検索、資料収集・調査を行い、その成果に基づいて各自の研究を計画・実行し、担当教員の指導の下にデータの解析、考察等を行う。
	２年次	１年次で設定した研究計画を遂行し、最近の研究動向を常に把握しながら、老年期医科学の分野において重要とされる課題の解決方法を提示できるまで、担当教員の指導の下に発展させる。
（リハビリテーション医学）	１年次	
	２年次	
外園　千恵　教授 （視覚機能再生外科学）	１年次	眼の構造と機能、さまざまな眼疾患を理解したうえで、眼疾患の病態解明あるいはアンメットニーズの解決に繋がる研究を開始する。そのために文献およびインタビューによる情報収集を行い、各分野における現状と問題点の把握を行う。
	２年次	１年次で収集した情報に基づき、現在研究開発が行われている新しい検査、機器あるいは治療法等について研究を行い、今後必要となる基礎的な技術を開発する。

指導教授		特別研究の概要
平野　　滋　教授 （耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）	１年次	聴覚および音声言語を介したコミュニケーションの重要性についての理解を深めるために、声帯の機能、創傷治癒、再生に関する基礎的研究、音声・嚥下機能の中枢神経調節機構、内耳の発生、生理に関する基礎研究についての研究指導を行う。 また、頭頸部の癌発生機序、癌微小免疫環境についての研究指導を行う。
	２年次	１年次で学んだ事項を基礎として、聴覚および音声言語を介したコミュニケーションの障害、あるいは頭頸部癌の免疫環境について研究を行う。１年次での知見をもとに、介入治療の可能性について検討し、新規医療の開発に向けて研究をすすめる。
（泌尿器外科学）	１年次	
	２年次	
天谷　文昌　教授 （麻酔科学、 疼痛・緩和医療学）	１年次	一般に知られる痛みでない“知ってほしい痛み”の持つ多様性から、各種痛みの発生機序、機序からみた治療法の確立、痛みからの診断、“がん”疼痛の原因からの考察などに関する研究を指導する。
	２年次	１年次で学んだ痛みの基本知識をベースに、神経障害性疼痛発症の機序、難治性“がん”疼痛など難治性慢性疼痛、CRPS（complex regional pain syndrome）など、様々な痛みを修飾する predictive factor 解明のための統計学的処理と論文作成などを指導する。

【遺伝カウンセリングコース】

指導教授		特別研究の概要
黒田　純也　教授	１年次	遺伝子関連検査および遺伝カウンセリングに関わる研究の最新動向について文献的検索・資料収集を行い、各自の興味に沿った研究テーマを設定できるように指導する。
	２年次	１年次での指導を踏まえ、遺伝子関連検査および遺伝カウンセリングの特性を深く理解し、設定した研究テーマについて深く考察できるように指導する。

試験場案内図



拡大図

交通案内

ＪＲ「京都」駅から市バス4, 7, 205系統
　→　「府立医大病院前」下車

阪急電鉄「京都河原町」駅から市バス3, 4, 7, 205系統
　→　「府立医大病院前」下車

京阪電鉄「三条」駅から市バス37, 59系統
　→　「府立医大病院前」下車
または　京都バス41, 43系統
　→　「府立医大病院前」下車

京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車　徒歩10分